



ユニーク・オア・ダイ? きわどい未来によろこそ [iMac]

メーカー アップルコンピュータ(株)
URL www.apple.co.jp/imac/

昭和生まれの人にとって、21世紀は輝ける未来のはずだった。しかし、21世紀を迎えてしまったら、未来は考えていたようにカッコいいものではなかった……いや、そもそも「カッコいい」ということ自体がわからなくなってしまった。そんななか、独り気を吐いているのがアップル。60年代レトロチックなデザインで人気を呼んだ初代iMacに続く2代目は、変テコな違和感のある近未来デザイン。だが、DVD-R/CD-RWドライブを装備、iMovie、iTuneにiPhotoサービスを加えてデジタルハブ化にぬかりはない。消費がお金を払っても楽しみたいゲームであるなら、デザインはそれを支えるコミュニケーション。この「きわどさ」に迫れる会社が他にあるか? そんなことを改めて感じさせるオブジェである。

(今泉 洋 / 武蔵野美術大学情報デザイン学科教授)



堅牢さと機能美
「業務用」ゆえの質実剛健さが魅力
[CF-P1]

メーカー 松下電器産業(株)

URL www.panasonic.co.jp/pc/prod/note/p1/

宅配便が家に来たときなど、スタッフが意外にかっこいいモバイル装置を使っていて眼を奪われてしまうことがある。業務用の機器は目的遂行を第一にデザインされているから、チャラチャラした装飾は皆無な代わりに堅牢さと機能美を漂わせている。この「CF-P1」もそういった魅力的な業務用マシンの1つ、ウインドウズCE搭載のPDAである。パーソナルユースのPDAにもこういうセンスを盛り込んだモデルがあればと思うのだけど、それはG-shockで一世を風靡した某メーカーなどにも期待してみようかな?
(クワクポリョウタ / デバイスアーティスト)

電子のガーディアン・エンジェル
アメリカ版ココセコムは腕時計タイプ
[Digital Angel]

メーカー Applied Digital Solutions, Inc.

URL www.digitalangel.net/home.htm

警備保障会社のセコムが提供している「ココセコム」が評判だ。これは行方不明のクルマやはいかい老人、子どもを捜してくれるというサービスで、契約数はすでに10万件超だそう。まさに時代の商品。「Digital Angel」は、緊急信号も送れる最新版「ココセコムEZ」によく似ている。だが、セコムが携帯電話を使うのに対して、こちらは体温、血液中の酸素飽和度、落下センサー、緊急通報用のボタンを備えた腕時計とベルトに付ける専用通信機のセット。こういうデバイス作りは日本がお得意だったような気がするが、いまや高性能携帯電話を流用したほうが合理的という判断? 位置情報に加えて、体温などのバイオデータまでをウェブ経由でユーザーに提供し、いざというときはコールセンターが対応する「Digital Angel」と、緊急対応員の派遣という海戦術的サービスで安心感を打ち出す日本、値段は違うが同じようなデバイス、同じようなサービスでもお国ぶりが出るところがおもしろい。(今泉 洋)





右手のタブレットを補完、作業をスムーズにする左手用デバイス
[WACOM SmartScroll] photo : Murayama Shinori

メーカー ワコム(株)
URL www.wacom.co.jp

パソコンで長時間作業するような場合、マウスやタブレットとキーボードをいちいち持ち替えるのは案外わずらわしいものだ。「Smart Scroll」はタブレットを操る右手はそのままに、左手を使ってスクロールやズームを行えるようにする装置。8つのファンクションキーも備えているので、使用頻度の高いショートカットを登録しておけばキーボードに手をやる回数も減り、作業が効率的に行える。画像編集や図面作成など、文章をあまり入力しない作業で特に効果を発揮しそうだ。

(クワクボリョウタ)

PRO'S Products
MARCH



北国の暗いSO“ SAD ”な冬に強力光治療器 [Litebook]

メーカー The Litebook Company
URL www.litebook.com

「Litebook」はその名前から想像できるように、10万時間の寿命を持つ白色LEDを72個使ったブックサイズの照明機器で、その明るさは5000ルクス。JIS規格推奨の照明器具が750ルクス、国内で明るさに定評のあるバイオライトでも2000ルクスなのを考えると、これはもう照明機器というよりは医療機器……と思ったあなたは、大正解。これは太陽光の乏しい冬に多くなるSAD(Seasonal Affective Disorder)という鬱状態を和らげるため、強力な光を使って体内時間をコントロールしているメラトニンに働きかける、いかにも夜の長い北国カナダならではの光治療器具なのだ。姉妹品に時差ボケ解消用の「Time Traveler」という製品があり、こちらには体内時計計算機能が組み込まれ、現地時間に適応するよう照射時間を調整できるようになっている。

(今泉 洋)



フレキシブルな畳の発想が生きる、ユニット式床暖 [たたみ床暖 DC-M1]

メーカー 松下電器産業(株)
URL www.national.co.jp

これは畳特有の感触を活かした床暖房機器だが、単に電気カーベットの表面が畳になっただけではない。構造そのものに目をむけてみると、0.5畳を1ユニットとしてさまざまなサイズ・形状に組み合わせられるユニットシステムが採用されている点は、いかにも畳らしい発想でおもしろい。また、内蔵されているヒーターには、従来のような線状のものではなく、面状に発熱するPTCフラットヒーターを使用しているため温度ムラがないという。こんなふうなエレクトリックの世界もいろいろと進歩しているのだった。

(クワクポリョウタ)

PRO'S Products

MARCH



パソコンから「Net MD」へ
インテリジェント型AV機器への第一歩
[バイオMX PCV-MXS2R]

photo : Murayama Shinari

メーカー ソニーマーケティング(株)
URL www.vaio.sony.co.jp

最近のウィンドウズマシンにはAV機器としての機能を盛り込んだモデルが多く見られる。バイオMX「PCV-MXS2R」もその1つで、パソコンとしては初めて「Net MD」デッキを搭載しており、ネットワークとMDの連携による「ミュージックサーバー」としての用途を提案している。フロント液晶パネルや操作ボタン群が物語るように、オーディオに特化したパソコンというよりは、むしろそこから一歩踏み出したインテリジェントなAV機器として位置付けられるのだろう。(クワクポリョウタ)



コピキタス企業を標榜する日立、有言実行の第一歩 [WIA-100NB]

メーカー (株)日立製作所

URL www.hitachi.co.jp/wia/

「パソコン出荷台数、初の前年割れ」が伝えられたせいでもないだろうが、このころ家電メーカーの動きが激しい。パソコンを意識せず、インターネットやBluetoothなどの組み合わせで新たな主役デバイス、というわけだ。ヘッドマウントディスプレイをフィーチャーしたこの製品もその1つ。実は米ベンチャーのOEMだが、たとえ市場テスト程度の数しか見込めなくても、天下の日立が「ウェアラブル・インターネット・アプライアンス」と名づけて発売するところに……おっと、もはやこんなことを意外そうに評価するの迷惑？ 情報機器はコピキタス化し、ますます生活になじんでくる……そんなウェアラブルを目指すなら、指輪や時計などの装身具とのアンサンブルを考えるなど、新たなデザインセンスが求められる。お堅いイメージの日立がどこまでその気になるか、その意味でも注目の製品だ。 (今泉 洋)



その中核はSDメモリーカード コンパクトさを武器に用途を広げるマルチカメラ [SV-AV10]

開発元 松下電器産業(株)

URL www.panasonic.co.jp

「SV-AV10」は、SDメモリーカードを使って動画、静止画、音声と、多様なメディアの記録および再生をこなす。動画は320×240で約20分、静止画は640×480と、クオリティーの点ではDVやデジカメと比べるべくもないが、コミュニケーションツールとして考えた場合、こうしたスペックは問題ではないだろう。「折りたたみ型の携帯電話と同サイズ(うまい!!)とうたわれるように、遊びに行くときに持ち歩いても気にならないサイズなので、利用の場面はいろいろと拡がりそうだ。 (クワクポリョウタ)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp